

## 「賛美のころ」 評・前島常郎

私は工藤篤子さんに会ったことはなく、コンサートに出かけたこともない。しかしここ数年、彼女のメールマガジンを読みつつ、その伝道活動に注目してきた。

\* \* \* \* \*

工藤さんは二〇〇〇年11月、『工藤篤子音楽ミニストリーズ』を設立し、世界を舞台にオペラ歌手としての賜物を生かした伝道活動を始めた。活動の拠点はドイツのハンブルクだが、招かれれば世界中どこへでも出かけ、毎年秋口からクリスマスにかけては日本を中心に活動している。

生まれたのは北海道の岩見沢。中学高校時代は札幌で育った。17歳のときにラジオの福音放送を聞いたのをきっかけに、聖書を読み始めた。

しかし、罪からの救い主としてイエス・キリストを信じ受け入れたのは、スペインのマドリッド国立音楽院に留学中のことだ。声楽の学びにも恵まれ、順調に行けば「地中海ソプラノ 工藤篤子」としてデビューし、洋々たる人生が開けようとしていた。

ところが、彼女を信仰に導いてくれたアメリカ人宣教師ダニエル・アンデルド夫妻が、スペインからドイツへと働きの拠点を移すことになった時、工藤さんはせっかく始めた声楽の学びをあきらめ、人生のコースを大きく転換するよう迫られた。結局、自分

も「宣教師の同労者」としてドイツに居を移す決心をした。一九八七年のことである。歌の

道を捨てて、一転、伝道の働きに献身したのだ。

娘の希望をかなえてあげようと、毎月多額の学資を送っていたお父さんは立腹した。「そんな自分勝手なことをするのなら、今後どんなにお前が助けてくれと言っても、親は一切援助しない。そのつもりでおれ」という手紙が来た。これから無収入になるのかと思うと、さすがに不安が増したが、

アンデルド宣教師は、「私の父、私の母が、私を見捨てるときは、私が私を取り上げてくださる」(詩篇27篇10節)というみことばを示して励ましてくださった。

「大人になるといふことは、心身ともに親元を離れて一人で歩出すということなんだ。これからアツコは、経済的なことだけでなく、何事であっても両親の助けを当てにしていけないよ。でも、あなたは一人ではない。全世界を創造された、世界で一番大金持ちの神さまとともに歩むのだから、必要は絶対与えられる」

それから、工藤さんは新しく始まった教会で「音楽伝道師」の立場を得た。しかし、経済的には何の保証もなく、始まったばかりの教会からの給与も期待はできない。みことば通り、日ごとの糧を与えてくださる神さまを信じ、友人のアパートに同居させてもらい、掃除婦やベビシッターをしながら生活を立てていた。

だがドイツだけではなく、次第にスペイン、イタリア、フランス

などからもコンサートの依頼が来るようになり、一度は「捨てた」と思っていた音楽の道が開かれてきた。神さまは別の計画をお持ちだった。祈りを重ね、尊敬する牧師に相談したのち、ついにその教会の伝道師の立場を辞して、世界を視野に置いた「音楽伝道師」としてスタートを切った。

「主に歌え。御名をほめたたえよ。日から日へと、御救いの良い知らせを告げよ。」

主の栄光を国々の中で語り告げよ。主の奇しいわざを、すべての国々の中で」(詩篇96篇2、3節)

これが後押ししてくれたみことばである。こう書くと、単に「華やかな音楽伝道をしている、才能豊かな誇り高い女性」と思うかもしれないが、工藤さんには庶民的な一面もある。

コンサートの合間の証しするときには、「警察官を父に持ち、優等生の仮面をかぶりながら、万引き常習犯でもあった高校時代の自分」を隠さず語る。

何度も幻覚や幻聴に悩まされもした。知的障がいを持つ妹に両親の愛情を全部奪われたと思ひ込み、すねたり、障がい児の妹をいじめた苦しい思い出もある。恩師でもある同労の働き人の善意が信じられないという苦しみも味わった。一時は結婚を真剣に考える人に

も出会ったが、神に従う道とはかけ離れていることを示され、引き返したということもあった。

\* \* \* \* \*

「賛美を歌うことで伝道する？ そんなことが本当にできるの？」彼女の歌を聞くまでは疑問だった。しかし、「Come To Me」を聞いて、いつの間にか神を礼拝している自分を見出した。

工藤さんのコンサートでは、『工藤篤子の神さまを信じてみたい』という人がきつと起きるだろうと思う。「伝道とはいのちを捧げること」という彼女のことがリアルに迫ってきた。

本書は二部に分かれ、第一部は信仰に至る経緯と、回復した家族関係について。第二部は、賛美について工藤さんが信じることと、賛美伝道の現場からの報告である。工藤さんは今年8・9月にはブラジル、10月は台湾各地でのコンサートを終え、その後12月いっぱいまで日本各地での活動に明け暮れる。



### 工藤篤子「賛美のころ」

B6 294ページ 1,575円  
 「Come To Me」(CD) 3,150円  
 (ファミリー・フォーラム・ジャパンでは扱っておりません。キリスト教書店、または左記にお問い合わせください)  
 〒541-0041 大阪市中央区北浜2丁目3の10  
 VIP関西センター5F 「ミッション・宣教の声」方 「工藤篤子音楽ミニストリーズ」  
 電話06・6226・1334  
 CDは、(http://www.socj.org/akmm/)で試聴できる。